

平成26年度

一般財団法人 建設業振興基金 建設産業情報化推進センター

設計製造情報化評議会

活動計画

平成26年 5月15日

一般財団法人 建設業振興基金  
建設産業情報化推進センター

設計製造情報化評議会（C-CADEC）は、平成 8 年 6 月から平成 11 年 5 月まで活動した「建設 CAD データ交換コンソーシアム」の事業を継承した組織である。当評議会では、同コンソーシアムで開発された成果を継続的にメンテナンスするとともに、CAD データ等の設計製造データ交換のために開発した成果について、活用の裾野の拡大を図り、業界における IT 活用を推進してきたところである。

しかしながら、基金の財政的な事情等により、平成 26 年度を基金が資金を拠出しながら関与できる最後の年度とせざるを得ないため、平成 26 年度内に既存成果に対し 3D に対応した仕様改訂を行い、BIM（Building Information Modeling）対応仕様として完結させることとする。

そのため、平成 26 年度は BE-Bridge や Stem などの仕様を 3D 化 BIM 対応にバージョンアップさせながら、C-CADEC 活動の総仕上げを目指すこととする。

平成 26 年度の活動の柱は次の 3 つとする。

## 1. 活動の柱

### （1）既存成果の進展と更なる普及に向けた活動

情報共有については、秘密保持契約書雛形及び解説書の普及展開に向けた活動に取り組むとともに、「建築工事における受発注者間の効果的な情報共有実現のためのガイドライン」普及促進に向けた活動に取り組む。

Stem は、仕様の 3D 対応など BIM 展開を推進するとともに、Stem コード/CI-NET コード統合を契機として商流へのデータ連携に向けた活動を深化、BIM ライブラリ流通の基盤づくりと普及展開を図る。

BE-Bridge は、BIM 対応の仕様検討を行い Stem 3D 対応との連携を進め、Ver.7.0 としてのリリースを目指す。

### （2）発展的検討テーマに係る取組みの展開

近年業界における話題の主流となっている BIM（Building Information Modeling）について、運営委員会及び各専門委員会の「建築/空衛/電設 BIM 研究 WG」において、C-CADEC としての BIM に関する活動を推進し、とりまとめる。

国土交通省より公表された「BIM ガイドライン」、市場動向、事例、他団体の動向等の調査を通して整理した BIM 推進に求められる要件に基づき提言をまとめる。検討に際しては各専門委員会間及び関連他団体との積極的な連携を図る。

技術調査については、C-CADEC 活動成果の活用事例の調査や C-CADEC の活動に資する情報の収集・提供を基本方針とし、建設現場における IT の動向や事例、設計施工における標準化動向等について講演会等を実施する。

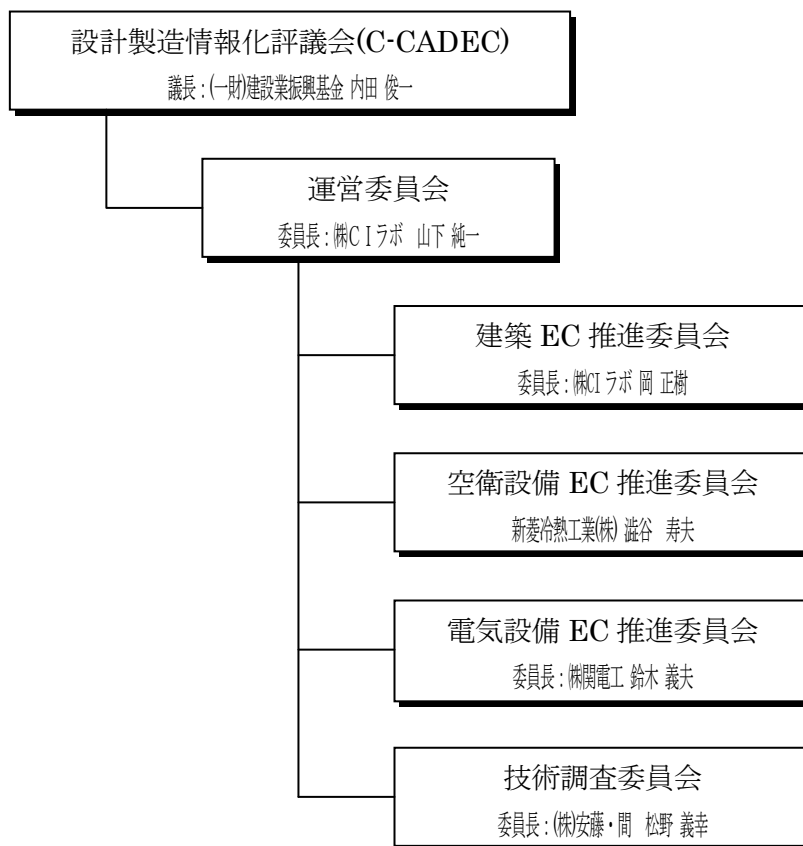
### （3）建築・設備分野におけるプロセスの電子化に係る活動

設計・施工段階での CAD データの活用をはじめとする、建築プロセス電子化の流れは着実に広がりを見せている。平成 26 年度は、国や業界団体の動向や調査、および C-CADEC としての取組みの検討を中心とした、建築プロセスの電子化に関連する活動の総仕上げを実施する。

以上

## 2. 活動体制

平成 26 年度の活動は以下体制により推進する。



### (1) 設計製造情報化評議会

設計製造情報化評議会は、建設産業情報化推進センターにおいて設計製造情報化のために行うべき活動について審議する。

### (2) 運営委員会

評議会の下で、建設産業政策大綱等の趣旨に沿って行う情報化推進業務、専門的に検討すべき事項の専門委員会への付託など、設計製造情報化の活動に係る基本方針の策定を担当する。

本年度は、次の事項について取り組む。

1. 各専門委員会の BIM 研究 WG における研究状況や成果を確認し、必要に応じて BIM 研究 WG に助言を行う。
2. BIM に関連した取り組みを行っている関連他団体（学会、業界団体等）について情報収集するとともに必要に応じ連携を図る。
3. 行政の動向について情報収集する。

### (3) 専門委員会

運営委員会の下で、各テーマについて専門的に調査検討、仕様策定、実用推進等を担当する。

### 3. 専門委員会の主な活動テーマ

#### (1) 建築 EC 推進委員会

- ・実務における情報共有の普及・活用に向けた検討
- ・建築分野における BIM に係る検討

#### (2) 空衛設備 EC 推進委員会

- ・Stem 仕様の BIM 対応改訂と” Stem Chain” 実現
- ・BE-Bridge 仕様の BIM 対応改訂
- ・空調衛生設備分野における BIM に係る検討

#### (3) 電気設備 EC 推進委員会

- ・電設分野における Stem 仕様の BIM 対応改訂
- ・電設分野における BE-Bridge 仕様の BIM 対応改訂
- ・電設分野における BIM に係る検討

#### (4) 技術調査委員会

- ・C-CADEC 成果の活用方法検討・関連動向の調査
- ・建築プロセス電子化の動向、標準化動向の調査
- ・建設現場における IT 活用動向と事例の調査

## 4. 建築 EC 推進委員会の活動計画（案）

### 4. 1 主な活動テーマ

- (1) 実務における情報共有の普及・活用に向けた検討
- (2) 建築分野における BIM に係る検討

平成 25 年度における情報共有についての取り組みは、発注者・受注者間で用いる情報共有時の秘密保持に係る取り決め事項である「秘密保持契約書(雛形)」およびその「解説書」を作成した。平成 26 年度は、これら成果について関連団体や企業への広報・普及に取り組む。

建築分野における BIM に関しては、平成 25 年度は BIM 普及に係る要件整理に取り組んだ。平成 26 年度は平成 25 年度までの成果を業界に向けた提言として取りまとめることを目指す。

### 4. 2 活動内容

#### 4. 2. 1 実務における情報共有の普及・活用に向けた検討

##### (1) 秘密保持契約書雛形案及び解説書の広報・普及活動

平成 26 年度は平成 25 年度に作成した「秘密保持契約書(雛形)」および「秘密保持契約書(雛形)解説」について、建築業界の関連団体及び企業への広報・普及活動に取り組む。

建築業界の関連団体への広報・普及活動について、日本建設業連合会等のホームページへの秘密保持契約書雛形案等に係る情報掲載等連携を図り、業界へ周知してゆくこととする。

##### (2) 活動の整理・方向性取りまとめ

C-CADEC の今日までの情報共有についての取り組みを整理し、今後業界が活用して行けるようアーカイブ化する。

現状想定される成果は以下のとおりである。

- ・「建築工事における受発注者間の効果的な情報共有のためのガイドライン」
- ・情報共有手法・事例等紹介サイト「情報共有のススメ」
- ・「秘密保持契約書(雛形)」、「同解説書」

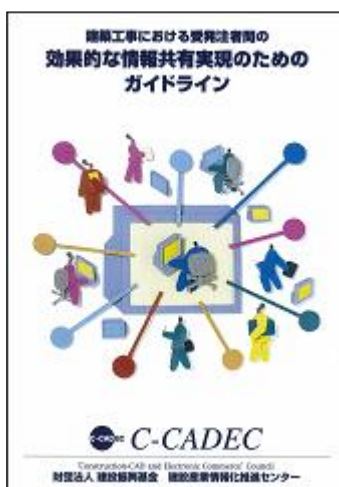


図 4.1 情報共有 WG 成果

## 4. 2. 2 建築分野における BIM に係る検討

### (1) 建築分野における BIM に係る検討

平成 25 年度に作成した「BIM 推進のための要件整理と考察」に基づき、建築プロジェクトの関係者へ向けた提言の作成を検討する。提言は、BIM の活用における人材育成、ソフトウェアに求められる機能、共通ルール、データの作成・管理に係る整合性確保や責任範囲といった検討課題について、誰が何を成すべきかを明確化し、BIM を活用する建築プロジェクトを進める上で有効な一つの指標となることを目標とする。

平成 26 年 3 月に、国土交通省官庁営繕部から「BIM ガイドライン」が公開された。ガイドラインは、平成 26 年度からの官庁営繕事業（設計業務及び工事）において受注者が BIM を利用する場合等に適用される。WG において「BIM 推進のための要件整理と考察」と「BIM ガイドライン」の関連を確認するとともに、作成する提言は「BIM ガイドライン」を考慮したものとする。

また、BIM を活用した建築プロジェクトに求められる新たなテーマを検討する。検討は日本建設業連合会や IAI 日本など関連団体と協業して進める。

### (2) 関連ツールの市場動向調査

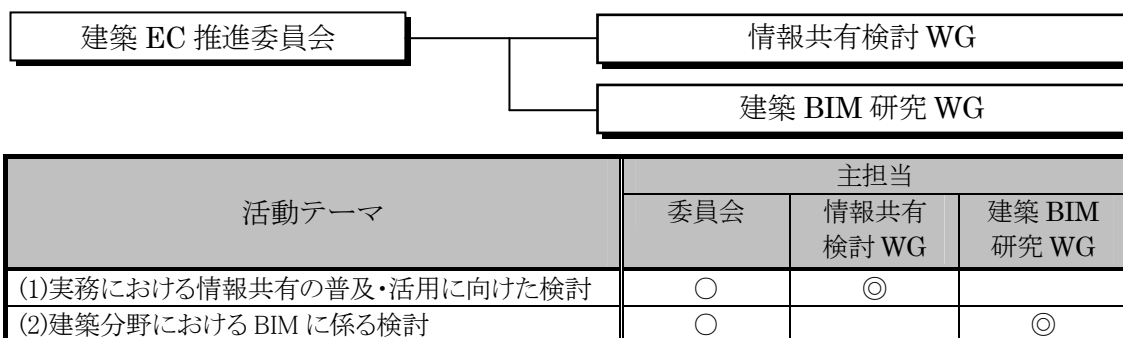
BIM に関連するツールの市場動向調査結果について、平成 26 年度末時点の状況を整理する。これにより、現在の技術で何がどこまで実現できるか等の情報を整理し、BIM の導入・普及・展開を検討している関係者への情報提供を行う。



図 4.2 平成 25 年度関連ツールの市場動向調査結果（抜粋）

## 4. 3 実施体制

平成 26 年度の実施体制は、次の通りとする。



凡例：◎主担当、○報告